



香川県防災士会 会報



第 14 号 2013.5

防災士の皆様、お久しぶりです。

今年は随分と早い梅雨入りとなりましたが、皆さまいかがお過ごしでしょうか。

4月27日の総会には、多数ご出席をいただきありがとうございました。

こちらの不手際で、多々ご迷惑をおかけし申し訳ありませんでした。

現在、香川県防災士会会員は146名となりました。（2013.5.27 現在）

これも、既存会員のみなさまの地道な活動により「防災士」の認知度が上がって来ている証拠です。ありがとうございます。

夏から秋にかけて、防災訓練等のイベントが多くなってきます。

地元に関差した活動の為に、是非ご参加ご協力よろしくお願ひいたします。

♪今回は、報告(3件)です♪

<香川県防災士会総会開催> 【久保 雅和】

平成25年度防災士会総会は新入会員26名を迎え香川県社会福祉総合センター7階大会議室で開催。会員144名中、出席81名、27名の委任状。

来賓として香川大学危機管理センター副センター長・岩原様、坂出市長・綾様から祝辞をいただき、高松市総務局次長危機管理課長事務取扱・河西様、善通寺市防災管理室・西岡様から出席をいただきました。また祝電を香川県危機管理総局長、丸亀市長から祝電をいただきました。

総会の第1部の基調講演は事務局長の提案でお願いした「70歳の高校生」と題して佐藤幸子さん、山下アキさん親子の講演でした。

佐藤さんはご主人をなくし、また経営していた会社も倒産等不幸が重なり、鬱病にかかり毎日「死にたい」「死にたい」と言っていた・・・娘さんも看病疲れから、ある日「ほんなら一緒に死のう。でもその前に一つだけやってから」とことで・・・何をしたいと聞いたら「高校に行きたい」とのこと。67歳で高校受験をめざし、高校に入学、鬱病も克服、全国弁論大会で優勝、またまた「ロサンゼルス」の弁論大会までいったそうです。親子の軽妙なトークで途中はウルウルするようなお話もありましたが3つの言葉「暗闇はいいことの前触れ」「目標を持つこと」「何かを始めるのに遅すぎることはない」をいただきました。防災士とはあまり関係のないと思っておりましたが大変いい勉強、教訓をいただきました。



総会は土居副会長の司会で始まり、会長挨拶では会員の顔が見える活動を目指すため県内7支部が設立したこと、事業報告の概要の中で「防災士は地域に根付いた活動を第一をとっていくこと、スキルアップ研修は2回しか実施できなかったが、防災士は基礎ができていることから、できるだけ活動に参加をしてOJT(オン・ザ・ジョブ・トレーニング)研修、技術のスキルアップを図ってほしい」また、ボランティア活動は3K「気楽に、気長く、根気よく」をもつとように参加できるときに参加してほしいと挨拶。



続いて来賓の香川大学危機管理センター岩原副センター長からは防災士会とは日頃から防災士養成講座の講師、また香川大学が主催するいろいろな事業にご協力をいただきありがとうございます。また、香川大学では平成25年防災の専門家を育てるため新たに「四国防災危機管理プログラム」を徳島大学と共同で開設し、香川の防災士の方も数名受講されています。今後とも地域に根差した防災士会の活動に期待をしている。

坂出市長綾市長は日ごろから防災士に防災訓練等に協力をいただいております。また、どこで災害が起きても不思議でない

このような状況であるとのことで坂出市も今年度から防災士資格取得に助成金を全額負担をしております。国や県からの詳細な情報を基に防災士として市民に何ができるか、何をするかを明確にして地域、市民のご指導をお願いしたい。このような集団は画期的なもので今後の活動に期待をしているところであります。

とのご祝辞をいただきました。

来賓の祝辞をいただいた後時間の関係から来賓の紹介、祝電披露、総会成立宣言、規約により会長を議長に選出。

24年度事業報告、決算報告、25年度事業報告、予算案を提案それぞれ満場一致で可決成立しました。今年度は規約改正案、役員改正案も提案され可決承認された。

今年度の主な活動は引き続き学校防災アドバイザー派遣事業の継続と四国整備局からの土器川大規模水害ワークショップテーブルリーダーの依頼があり実施することになった。

今年度は総会終了後、顔の見える活動をするため各支部毎に集まり自己紹介を兼ね交流を計り、来年度の減災活動に向けて決意を新たにしました。

総会も無事終了、その後場所を変更し、懇親会を開催、52名が参加し盛況のうちに無事終了した。



＜弦打コミセン講演会＞ 【岡 重範】

平成 25 年 3 月 9 日 10 時から 11 時 30 分まで参加者 70 名ほど、弦打コミュニティセンター主催で防災についての講演会が開催され、香川県防災士会から講師として、久保会長を始め和田高松西支部長、林東讃支部長が講演を行いました。

林支部長は、初めに勤務先が皆様と同じ地区にあり、防災に関する仕事をしております。地元にいるので相談があればいつでもご協力しますと説明され、演題は「防災における自助、共助」～敵を知り己を知れば、百戦危うからず～の古事を引用して敵を知ることを説明しました。弦打地区の自然災害危険箇所、地形と地盤の弱い地域の情報から液状化と不同沈下が発生する可能性が高い土地や、標高 5m の等高線を示して津波が襲ってくる地域、巨大地震で溜池が決壊する可能性がある地域もあること、災害時要援護者と支援者は垂直避難の避難ビルを決めておくことの重要性を力説しました。



和田支部長の講演は、「防災マップからアクションプログラム」で、香西東町に住居を構えており、弦打地区の北側で海寄りに位置し、自宅を例にとり津波が来た時にどうなるかをわかりやすく解説、避難所までのルートの注意事項、さらに本津川、香東川、古川に架かる橋梁の構造メカニズム、被災の可能性等を説明され、もし県道等における橋梁が被災した場合は危険なため、一時避難は、自宅近くの 3 階建て以上のコンクリート作りのビルを決めておくことなどを説明しました。

久保会長は、今なぜ自主防災組織が必要か、正常化の偏見からの脱却、災害が来ても自分だけは死なないとの思いがあるので改めて欲しい。「自分の命は自分で守る」平時の備え事前対策、災害をイメージし、どう動くかを考え、対策を立てておく。避難勧告、避難指示はどこから情報が入りますかとの問いかけ、避難の場合は率先避難、ご近所への声掛け、家具の転倒防止、一日の内半分以上は自宅におるので寝室には、特に大きい家具は置かない。家屋の耐震診断、出来たら耐震工事をする。緊急地震速報は南海トラフの地震であれば 30 秒程度はあるので日頃から対策考えておく事、非常用持出し袋の置き場所、保険証、貯金通帳のコピーを非常用持出し袋の中に入れておくことなどの説明しました。参加者は、どの話も真剣に聞き入っておりました。楽観バイアスがどこまで消滅されるか、後日アンケートでもしたらと思いました。



＜十河地区HUG研修＞ 【多田 邦夫】

橘防災士からの依頼により香川県防災士会高松南支部では3月23日(土)9時30分より、十河コミュニティセンターにて十河地区自主防災会員を対象にHUG研修を実施。

参加者は32名で、高松南支部防災士6名(多田・中村・斉藤・二宮・木田谷・宮脇)にて対応しました。久保会長もオブザーバーとして出席して下さり、講評等をしていただきました。

開始早々は少しとまどった様子も見られましたが、各防災士の好リードにより積極的な研修が実施できました。研修終了後の意見としては、「机上訓練でこれだけ混乱状態になるのだから実災害時の避難所運営の困難さは計り知れないほどである」という意見が多く出ました。また大変貴重な研修経験ができたので、一度だけでなく今後繰り返してHUG研修を実施していけば、災害時の避難所運営に多いに役立つという意見もありました。当十河地区は子供を交えたコミュニティ活動が活発なため、子供も交えた防災活動を実施していくことにより、より効果的な組織になっていくのではないかとアドバイスしてきました。

今後もこうした地元に密着した防災士活動を目指して支部全員で努力してまいります。



今後の行事予定

6/6, 20 コープしこく防災講演会（高松南支部）

7/6 スキルアップ研修「担架搬送・応急手当（三角布）」（要参加申込 6/28(金)締切）

<内容は同じです。参加希望会場をご連絡ください>

- ① 9:30～12:00 屋島西コミュニティーセンター（高松市屋島西町 2483-2）
- ② 14:00～16:30 岡田コミュニティーセンター（丸亀市綾歌町岡田下 516 番地 1）

7/6～7 被災想定訓練（要参加申込 6/14(金)締切）

<香川県レスキューサポートバイク赤十字奉仕団主催>

日時：7月6～7日（雨天の場合翌週に順延）

場所：徳島県那賀町【四季美谷温泉 周辺】

費用：各自実費

- ・四季美谷温泉（4人部屋・朝食付）1人6,800円
- ・ファガスの森 テントサイト1区画500円
- ・バンガロー等建物使用 約3,000円

7/9, 16 高松市東植田校区講演会、HUG 研修（高松南支部）

9 末頃 四級アマチュア無線養成課程講習会 <香川県レスキューサポートバイク赤十字奉仕団主催>

日時：未定（9月末～10月頃を予定）2日間の完全受講が必須となります。

場所：香川県社会福祉総合センター会議室（予定）

費用：22,750円（中学生以下 7,750円）

※日程は決まり次第再周知いたします。